

俳句的なことから (11)

北九州と松本

中嶋 嶺雄

本誌の佐藤文子主宰は北九州が生んだ俳匠・穴井太を師として戸畑に育ち、いま信州の松本で活躍している。北九州と松本という組み合わせには、松本藩主の小笠原忠貞のちに小倉藩主となったことや、有名な小倉連隊と松本五十連隊との関連、そして多くの俳人が出ていることなど、意外に共通性が多い。

その俳句の世界では、清艶豪華で有名な杉田久女が永く小倉に住んでいたが、両親(赤堀家)の故郷は松本で、紫陽花に秋冷いたる信濃かななどの名句を残している。久女がへ墓の前の土に折りさす野菊かなと詠んだ松本市城山の赤堀家の墓所脇には、分骨された久女自身の墓もある。

もう大分以前になるが、私は藤岡筑邨先生から久女のことを教わり、田辺聖子著『花衣ぬぐやまつわる』が愛の杉田久女(集英社文庫)などを夢中で読んだことがあった。そんなある日の秋雨上がりの午後、私の松本の山荘に群生した野菊を携えて久女の墓を訪れ、刊行されたばかりの亡父の句集をここには「久女之墓」と虚子が達筆で記した黒い墓石に載せ、線香を焚いたこともあった。

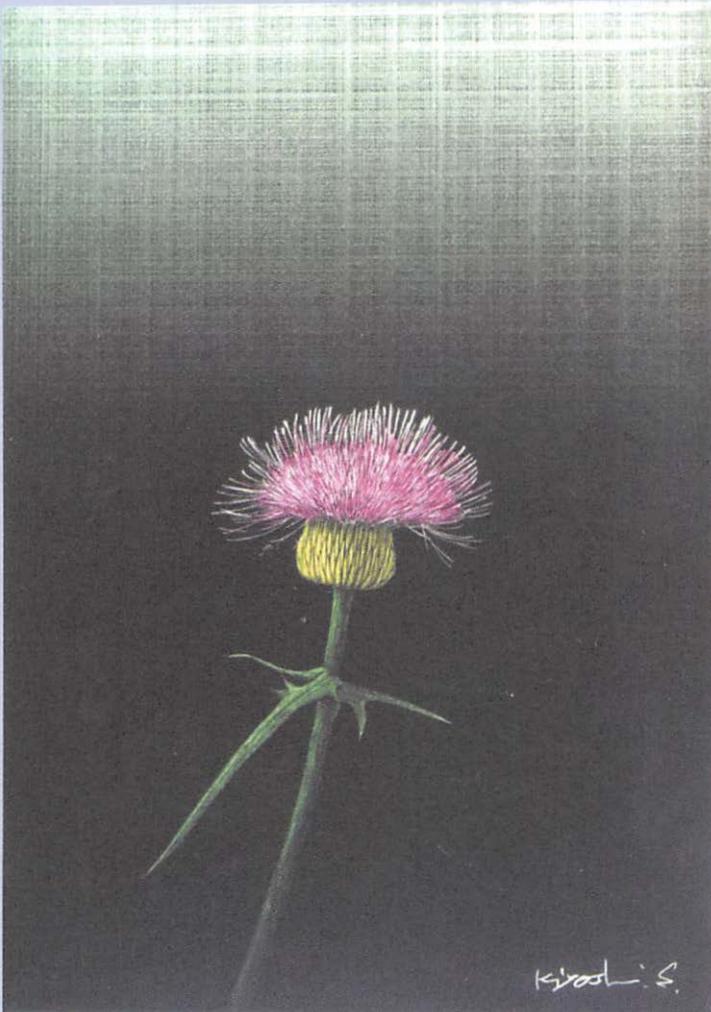
実はその私が昨春から、北九州市立大学に新設されたユニークな博士大学院(社会システム研究科)の教授を兼務することとなった。時間を縫って板櫃川や福聚禅寺、久女が長く住んだ堺町かいわいなどゆかりの場所を院生の案内で訪れている昨今だが、市の当局者が北九州の顔だから是非見てほしいと強く勧める松本清張記念館へは、どうしても行く気になれない。清張氏が小説『菊枕』で、久女をあまりにも否定的に描いているからである。(国際社会学者)

目次(224号)

俳句的なことから(11)	表紙絵	齊藤 清	1
俳冠抄	題字	佐藤 文子	2
風のロンド		中嶋 嶺雄	3
実石榴			4
子の重さ		佐藤 文子	5
俳句アンクル		伊藤みち子	6
邂逅集			7
五句選	沢 たか女・手塚 卓二宮 雪山		17
粹集			18
しなの茶房	恵鶴 保昌・野井 文生		25
風発		高木 彰	26
溪流	丸山 友昇・二木 鈴女		27
一句の衝撃	井川しずく・平林 木子		28
一句一会	良 金田みずほ・丸山奈津子		29
青嶺集	丸山 佳子・笠原 千佳		30
青樹集			31
萌芽集			32
久女雑感(21)	増田 連		39
せせらぎ	清水 奉人		40
万華鏡			41
受贈誌作品			42
例會作品・風信子・文箱			43

平成七年四月十九日 第三種郵便物許可  
平成十五年十一月十日発行(毎月一回十日発行)  
第十九卷第十一号十一月号(通卷二三四号)

# 信濃俳句通信



2003 11月号